

## 事業所における児童発達支援自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 2月 10日

公表:令和 6年 2月 15日

事業所名 チャイルドハート大在

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1	・パーテーションやサークル等を使用して個別の空間づくり等するようにしている。 ・クールダウンができる部屋がない為、荷物や備品を移動するなどしてスペースの確保をしている。	・その日の利用人数が多い時は狭いと感じる事があるので、活動場所を公園やお出かけするなどにして、利用児が過ごしやすい環境や状況づくりを心掛けている。
	2 職員の配置数は適切である	9	0	マンツーマン支援が必要な利用児には指導員が必ず一人付く事ができている	・基準の配置以上の職員を確保し、個々に合わせてマンツーマン対応ができるようにしている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	0	・利用児の名前をひらがな表記し、個人マークで表示することで、私物管理できるようにしている。 ・毎月の献立をひらがな表記で掲示し、いつでも見られるようにしている。 ・バリアフリー化されており、コーナガードを付ける等、危険がないよう配慮している	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	・日々の清掃、毎日の環境チェックを行い、プレイルーム、トイレのアルコール消毒をして清潔に努めている。	・日常で使用している玩具等の食毒を月1回実施しているので、今後は週1回は行うようにしたい。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0	・定期的にミーティングを実施し、日々の振り返りを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0		・保護者様の意見や意向を踏まえ、適宜職員間で検討し業務改善を務めている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	0	・定期的にFC本部が外部評価を実施し、指摘された箇所を見直し、改善できるよう努めている。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	・定期的に外部研修に参加し、学んだ内容を共有できるよう、職員間で研修の機会を設けている。	・年間の研修日程を一覧を作成し、療育についての知識や専門性の向上をめざした研修を各々受講し、職員間で研修内容を共有している。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	・職員間でもアセスメントを基に話し合いの場を持ち、計画作成に反映させている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0	・事業所独自のアセスメントシートを使用し、利用児の状況把握を行っている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	・日々の朝礼、終礼、定期的に職員会議を実施し、支援の振り返りや支援内容の共有をしている。 ・毎日記録を行ない、支援計画に沿った支援記録を取っている	・当日利用児の児童発達支援計画を毎日の朝礼で確認し合っている。また支援後には、振り返りを児童発達支援計画に基づいた記録を取っている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	・職員間にて個々の発達に応じた療育方法を検討し、活動プログラムを作成している。	・利用児の課題に沿った活動プログラムを職員間の話し合いで立てて、集団療育や個別療育の内容に反映させている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	・その日の利用児によってプログラムを変えて活動している。 ・集団療育、個別療育を日々取り入れ、季節の行事やイベント等の活動を実施している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9	0		
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	・その日の担当利用児や翌日の送迎表を前日に職員へLINEで周知しているため、朝礼に居ないパート職員も把握できるようにしている。 ・朝礼で一日の動きや役割を把握できるように話し合っている。		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	・終礼でその日の振り返りや支援の仕方、気づきなどの情報共有を行なっている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	実際に担当した指導員が記録を入力しているためより正確に記録を取る事ができている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	・モニタリング実施前に、職員間で支援内容を振り返り、見直しの必要性について話し合っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0	・必要に応じて関係機関と情報共有し、利用児やその家族に合ったサービス提供ができるように努めている。	・保健師さんや子ども家庭支援センターさんと密に連携をとりながら、家庭支援の仕方を工夫している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			受け入れなし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			受け入れなし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	・必要に応じて支援内容や利用児の様子について、情報共有を行ない、共同したかわりを持ち続けるように工夫している。	・事業所での様子や園での様子を伝え合い、支援内容や情報が相違ないか等連携をとりながら行なっている。保護者様の意向や困りなどがある時に連絡を取り合っているため、今後は定期的に情報交換を行ない、支援に取り入れていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	・小学校や特別支援学校へ、現在の支援状況や発達状況について情報共有している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	0	・利用児によっては、専門機関と連携し、相談・助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	7	・園との交流は難しいが、公園や公共の場に出掛けの際は、交流できるよう配慮している。	・公園遊びでは、地域の子どもに挨拶したり一緒に交わって遊んだりなどの交流の機会を多くとれている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	9		・自立支援協議会への参加がないので、まずはどんな部会があるかを知り、今後参加して支援に役立つ情報を得ていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	・送迎時や連絡帳で毎日様子を伝え、家庭での様子もお伺いしている。 ・保護者との情報交換があった際は、職員間で情報共有するようにしている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	1	・モニタリング時に、事業所内でのお子さんの様子や対応について細かくお伝えし、お家での様子をお伺いした上で、アドバイスや助言をしている。		
保護者への説明書	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	・利用契約時に十分時間をとり、説明を行なっている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	・モニタリングの際に支援内容の説明を行ない、保護者から同意を得る様になっている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	・ご相談していただければ全て真摯に対応している。その場で適切な助言ができない場合は、事業所として適切な回答を模索した上で返答している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	0	・保護者参観や親子遠足等、保護者が参加できる行事を設定し、交流の機会を設けるようにしている。	・保護者参加型の夏まつりや療育参観日、ハロウィンパーティ、クリスマス会、親子遠足等を実施して、保護者様同士の顔合わせや悩み相談、親子のかかわり方など、知ったり学んだりできる機会を設けるようにした。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	・相談や申し入れがあった場合は、迅速かつ適切に対応できるよう努めている。	

任等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	・月の活動内容や行事予定等を記載したお手紙を配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	・個人情報に記載されている文書は鍵付きのロッカーで保管し、それから文書の破棄にはシュレッダーを使うなど取扱いには注意している。 ・SNS等に写真を掲載する際は個人が特定されないようにしている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	・絵カードや写真を使用し、視覚支援を多く取り入れている。 ・保護者様にその子に合った療育グッズをお渡しして家庭でも協力して支援が行えるようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	0		・地域住民の招待はないが、大分県のボランティア団体から講師をお招きして、リトミックを実施したり、療育キッズヨガではリモート教室を実施したりと外部の方との交流の機会を増やしている。今後も地域交流を図っていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	・各種マニュアルを作成、定期的に感染症についてや、発生を想定した実技訓練を計画し、全職員が対応できるように実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	・月1回は避難訓練や防犯訓練を計画、実施している。	・地震、津波を想定した避難訓練では、実際に避難場所や避難経路の確認を行ない実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	0	・初期面談の時に尋ねたり、アセスメント時に再度保護者様に聞き取りを行なっている。	・初期アセスメントでは予防接種を受けているかの把握はしていないので、今後聞き取りを実施する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	0	・契約時にアレルギーの有無と対応方法について確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	・ヒヤリハットや事故報告があった時には、職員間で周知して気をつけている。	・ヒヤリハット報告書を基に事例をあげて利用児への安全管理を行なっているが、実際に事故報告書が多くあがっているので、職員間で日常の危険予測を想定した話し合いの場を多く持ちたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	・定期的に虐待防止研修を実施し、自己の振り返りと自己評価を実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	0	・事前に子どもの特性を踏まえ身体拘束の必要性を職員間で話し合い、保護者様に説明した上で、了承を得て行なっている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。